Ｂ－６　自己へつながる

学習とは教師がその時間の目標やねらいを設定し、それに向けて児童が効率的に学習できるように指導、評価、支援をしていく活動である。しかし、実際の授業では、そうした教師のねらいや意図の通りに学習が行われるわけではない。

課題を解決していくためのヒントやきっかけを教師の働きかけ以外から得ることも少なくない。例えば、何気ない友だちとの言葉のやりとりの中から課題を解決するヒントを得たり、直接課題を解決することでなくとも、その学習を通して友だちと話し合うことやノートを取ることの大切さを感じたりする。

そうした児童一人一人の学びは教師の意図を越えて多様である。つながる授業の中では、そのような児童一人一人の主体的な学びも大切だと考え、授業の中でペア学習やグループ活動、ふりかえりといった場を設定している。

ペア学習から、友だちの考え方の良さを知り、自分の考え方をふりかえる。そして、今までの考え方を再構成し、他の友だちに説明することにより、より良い考え方を身につけた新たな自己を知ることへとつながっていく。

児童は、こうした多様な学びを通して、今までの自分の知識や考え方をふりかえり、より豊かに発展させていく。しかし、このような学びは学習課題の解決に直接かかわらないため、児童にはあまり意識されないことが多い。

そこで、授業の中でこの学びを取り上げ、共有していく場を持つことが大切になる。これにより、他者の学びが自己の学びへとつながり、児童は互いに影響し合いながら向上していく。つながりの場は、児童の中に学びのサイクルを育てることになるのである。